法政大学

SDGs+（プラス）プロジェクト

Voluntary University Review

SDGs+レポート

2022

Vol.2

法政大学

法政大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGs VUR発行に寄せて

法政大学は、2018年12月にSDGsに関する総長ステイトメントを発表し、大学全体としてSDGs達成に向けた取り組みをより一層加速することを宣言し、理念の有効性を確認しながら多様な活動を展開してきました。

その後、日本の大学としては初のVoluntary University Review として2021年9月に「SDGs+レポート」を発行しました。これは2020年9月に策定した「法政大学SDGs+（プラス）プロジェクト2030アジェンダ」の進捗状況を確認し、行動計画の見直し等を行うこと、さらには社会に対して発信していくことを目的にしたものです。また、進捗状況の確認および行動計画の見直しにあたっては、教員組織・職員組織に加え、SDGsの活動を精力的に展開している学生組織「SASH（サッシュ／SDGs Action Students of HOSEI）」が参画する「法政大学SDGs+プロジェクトレビューミーティング」において、全学体制での進捗管理等を行っています。こうした取り組みは継続していくことが重要であり、またSDGs達成に貢献するうえで非常に有効な手段です。大規模大学である本学が継続して実施していくからこそ、影響力は大きなものになり、多くの、そして多様なステークホルダーを巻き込むことが可能になります。

このたび、昨年度に引き続き「SDGs+レポート2022」を発行する運びとなりました。本学は、これからも 「法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ」 を重要な指針として、持続可能な地球社会の構築に貢献し続ける大学を目指していきます。

法政大学総長

廣瀬　克哉

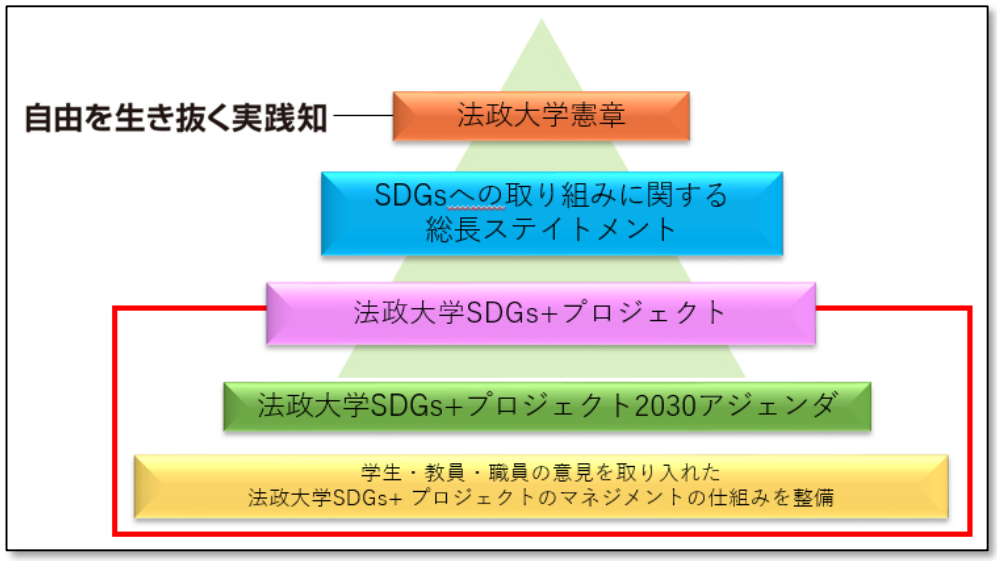
法政大学SDGs+(プラス)プロジェクト
と
法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ

法政大学SDGs+プロジェクトとは

法政大学では、1999年に環境憲章制定、ISO14001審査登録など、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し続けてきました。2016年には法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を制定し、より一層、地球社会の課題解決への貢献および持続可能な社会の未来に貢献することを謳っています。

2018年12月には、法政大学憲章の下、「SDGsへの取り組みについての総長ステイトメント」を発表するとともに、全学的にSDGsを推進し、法政大学ならではの貢献をプラスするという意味を込めたプロジェクト「法政大学SDGs+(プラス)プロジェクト(以下プロジェクト)」を設置しました。プロジェクトでは「教育」「研究」「社会貢献」「学生」の4つを軸とし、様々なパートナーと連携しながら活動を実施しています。

法政大学とSDGs

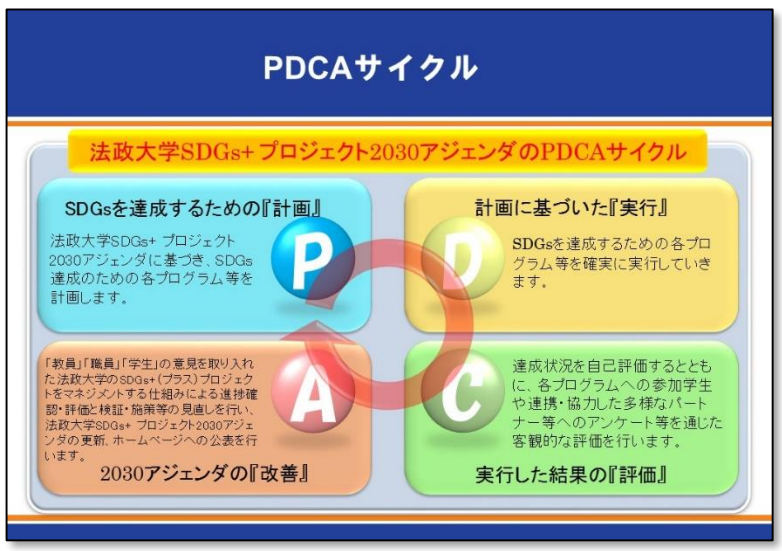


法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダとは

本プロジェクトでは、2020年からSDGsの「行動の10年(Decade of Action)」がスタートしたことを踏まえ、2030年までに達成すべき目標として、「法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダ(以下アジェンダ)」を2020年9月に策定しています。アジェンダでは、「教育」「研究」「社会貢献」「学生」「パートナーシップ」のゴールを定め、それぞれに、ターゲット、インディケーター、目標値(2030年次)を設定しています。

また、アジェンダの進捗状況を確認し、行動計画の改訂を行うレビューミーティングを毎年実施しています。

このSDGs+レポートでは、ゴールごとの主な活動内容等を報告します。



教育×SDGs

EDUCATION
for SDGs

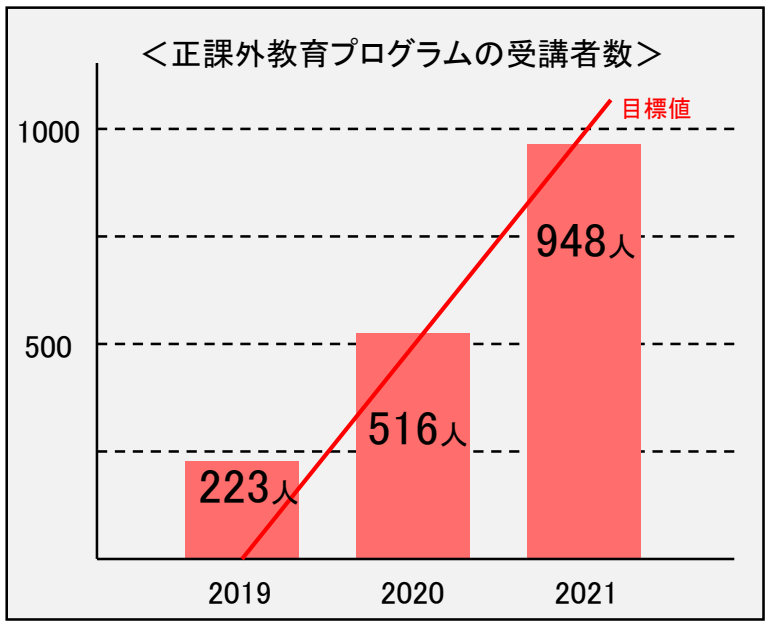
4 質の高い教育をみんなに

ゴール1
SDGs人材育成のためのあらゆるプログラムを設置し、SDGs人材を世界中に輩出する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
1．1	すべての学生がSDGsについて理解する。	1．1．1	オンライン講座「SDGs入門」の受講者数	累計1万人以上
		1．1．2	SDGsサティフィケート取得者数	累積2,000人以上
		1．1．3	SDGsに関する正課外教育プログラムの受講者数	累積5,000人以上
1．2	すべての学生が多様なフィールドでSDGsを実践する。	1．2．1	SDGsに関係したフィールドワークプログラムの実施数	累積100以上
		1．2．2	SDGsに関係したフィールドワークの参加人数	累積2,000人以上
1．3	すべての学部等においてSDGsに関連する科目を幅広く開講する。	1．3．1	SDGsに関連する科目数	2030年のSDGs科目群への提供科目数1,000科目以上

正課外教育プログラムの参加者数の推移

法政大学では、正課教育としての「SDGsサティフィケートプログラム」に加え、様々な正課外教育プログラムを展開しています。それにより、学生は自身の専門性を深めることができる正課教育と、専門性を広げ、より実践的な学びに繋げることができる正課外教育をうまく活用し、自分自身にあったSDGsの学びのサイクルを確立することができます。これまでに、企業や地方自治体等によるセミナー形式や、後述のゼミナール形式など多数の正課外教育プログラムを実施してきております。延べ参加者数は2021年度時点の目標値（1,000人）にはわずかに届いていないものの、着実に参加者数は増加傾向にあります。2022年度以降も様々な正課外教育プログラムを展開し、SDGs人材を育成し社会に輩出し続けます。



法政大学SDGs実践知ゼミナール

法政大学SDGs実践知ゼミナールとは、SDGsで先進的な取組をしている自治体・企業等からゲストスピーカーを招き、講演ならびに学生とのディスカッションを行うことを通して、SDGsを学び、実際のアクション（行動）に繋げるための思考を学ぶ正課外教育プログラムです。2021年度から開始し、本学をはじめ、多くの他大学の学生も受講しています。

グループディスカッションの様子

全日程終了後の集合写真

SDGs実践知ゼミナール受講学生の声

私の就活の決め手は、その企業の存在意義が未来の日本や世界、地球に向けて現在進行形で行動しているかどうかということでした。しかし企業として地球のために出来ることとはどんなことなのか考えた時にまだまだ自分の知識が足りないことに気付きました。そんな時に企業の取り組みを直接聞き、ワークを通して学ぶことが出来る実践知ゼミナールの存在を知り是非参加したいと思いました。全ての企業様それぞれの事業内容を活かして、SDGsのゴール達成に向けて取り組まれていることがとてもよく理解できましたし、私たち学生がまだまだ知らなかった取り組みもたくさんあることに気づくことができました。グループワークを通して、企業のSDGsの活動を自分ごとに捉えて考えられたので、ただ学ぶだけでなく、自ら意欲的に調べて学習することができました。

人間環境学部
梶原　実乃梨さん

研究×SDGs

RESEARCH
&
INNOVATION
for SDGs

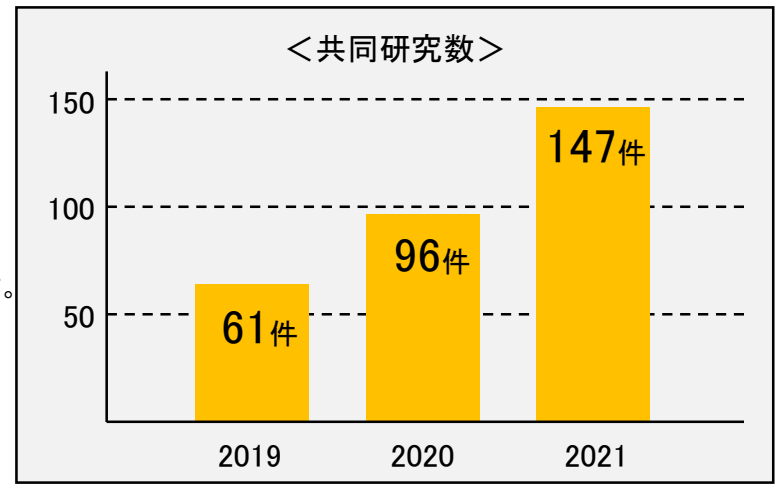
9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ゴール2
SDGs達成に貢献する研究を推進し、社会に発信する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
2．1	SDGs達成に貢献する研究やSDGsに関連する研究を活発に行い、発信する。	2．1．1	SDGs登録プロジェクト数	累積100以上
		2．1．2	SDGsに関連した他機関等との共同研究数	累積50以上
		2．1．3	ホームページや冊子等で発信するSDGsに関する研究数	累積500以上

SDGsに関連した他機関等との共同研究数

法政大学は１５に及ぶ学部を擁する総合大学です。文系理系問わず、様々な分野・テーマでの他機関等との共同研究が盛んに行われています。特に理系分野においては毎年度数多くの共同研究が新たに立ち上がっています。　法政大学SDGs+プロジェクト2030アジェンダでは、その１つに「SDGsに関連した共同研究数」をインディケーターに掲げています。現在、SDGsを軸とした他機関等との共同研究数は計数できていないものの、共同研究全体でみると毎年度30件以上増加しています。今後は、各共同研究がどのようにSDGsの達成に貢献しているかを整理する仕組みを検討し、「SDGsに関連した共同研究数」の計数、発展を目指していきます。



法政科学技術フォーラム

法政大学の理系学部による研究・技術開発の内容および成果を発信する「法政科学技術フォーラム」を2019年度より開催しています。理系の研究内容の多くはSDGs達成にも貢献しているものが多く、引き続き、研究の活性化および発信による社会貢献を目指していきます。

企業や地域の「サステナビリティ」社会実現のための研究

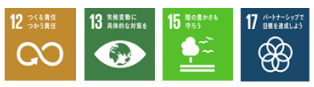
人間環境学部
金藤　正直　教授

「サステナビリティ」という概念は、これを中心に据えて経営を行っている企業や地域によってさまざまな定義がなされています。現在も、CSR（企業の社会的責任）、CSV（共有価値）、IG（包括的成長）、SDGs（持続可能な開発目標）などの概念に基づいて、「サステナビリティ」社会実現のための企業経営や地域経営が展開されています。

このような「サステナビリティ」の捉え方は、研究者によっても異なります。私は「サステナビリティ」を「持続的成長」と捉え、「企業または地域が、社会（ステークホルダー）からの信頼を獲得するために、長きにわたって事業を営み、成長し続けていく取り組み」と定義しています。現在は、この概念に基づいて、表に示された研究をゼミ生や事業関係者と連携しながら取り組んでいます。　研究テーマは、本学に着任以降少しずつ増えていきましたが、ゼミ生や事業関係者と連携し、社会課題への解決策を検討していく研究の実施方法は、着任時から変わっていません。このような方法を採ることにより、私、ゼミ生、事業関係者との間により良い関係が生まれ、サステナブルな学びも可能になると考えています。

現在も、研究テーマに関するさまざまな課題への解決策は、いまだ十分に提案できていませんので、これに関連するSDGsの目標達成にも当然貢献できていないことになります。今後も、こうした課題に対しては、関係者全員との連携体制をしっかりと構築し、これまでの社会システムを変えるぐらいの大胆な解決策を検討していきます。そして、SDGsの目標達成とともに、企業や地域の「サステナビリティ」社会実現にも貢献していきたいと考えています。

表　研究テーマ・概要とSDGsとの関係

テーマ	概要・キーワード	SDGsに関連する目標
環境経営/ サステナビリティ経営	企業間連携：サプライチェーン・マネジメント ・フードロス/一般・産業廃棄物 ・サステナブル・ファッション ・森林・林業	
地域経営	組織間連携：産業クラスター・マネジメント ・食農連携事業 ・地域創生/地域活性化 ・再生可能エネルギー事業（地域循環共生圏） ・ソーシャルビジネス（包括的成長事業） ・コーディネーター能力 ・協働	
人的資本経営	部門間連携 ・人的資源管理 ・健康経営 ・労働安全衛生	

社会貢献×SDGs

SOCIAL CONTRIBUTIONS for SDGs

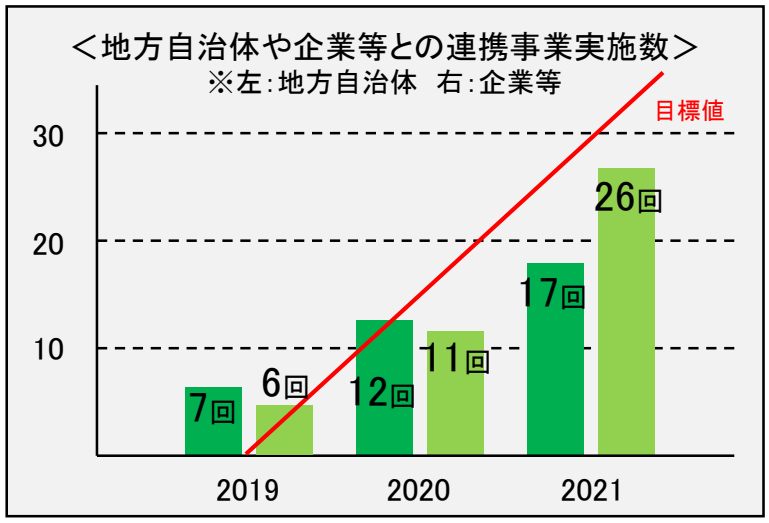
ゴール3
社会との接続を強化し、誰一人取り残さない社会を構築する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
3．1	SDGsの「leave no one behind（誰一人取り残さない）」の理念に基づき、誰もが無償で受けられるプログラムを提供する。	3．1．1	SDGsに関連する講座、セミナー、シンポジウムの開講数	累積20以上
3．2	SDGsを軸とした高校教育と大学教育の接続プログラムを実施する。	3．2．1	プログラム実施数	累積50以上
3．3	SDGsを軸とした連携事業を活発に実施する。	3．3．1	地方自治体との連携事業実施数	累積100以上
		3．3．2	企業との連携事業実施数	累積100以上

SDGsを軸とした高大連携プログラム

本学では、SDGsを軸とした高大連携プログラムを多数実施しています。SASH（次ページ参照）では、「Meet Free Monday」を実施し、畜産業が環境に与える影響を学び、個人レベルでできるアクションについて考えるグループワーク、アクションの実行、実行した結果の共有までを行う高大連携企画（本学付属校、三輪田学園との連携）が行われました。またSDGs WEEKsでは、本学と関西大学の学生で構成されているSDGsの活動を行う学生組織「KLASH（クラッシュ）」と、SDGsの活動を行う高校生の団体「50cm.」とコラボレーションした高大連携ワークショップも実施しました。

KLASHによる高大連携ワークショップの様子



地方自治体や企業等との連携事業

2018年12月にSDGsに関する総長ステイトメントを発表して以降、様々な地方自治体や企業等との連携事業を実施してきました。セミナーやポスターセッション、ワークショップ、インターンシップ、学生とのコラボレーションイベントの実施等、連携内容は多岐にわたります。2021年度までの目標値（各30）には届いていないものの、特に企業等との連携事業数は2021年度に大きく伸ばすことができ、「法政大学SDGsパートナーズ」への加盟企業等も増加傾向にあることから、今後のさらなる連携事業実施数の拡大が見込まれます。

2022年度からは、これまで以上に地方自治体との連携事業に力を入れ、地方創生とSDGs等をテーマにしたフィールドワークの実施など、学生が実践的なアクションに挑戦できるプログラムを計画していきます。

SDGs推進強化週間「SDGs WEEKs」

法政大学と関西大学は2017年に包括連携協定（明治大学を含めた三大学連携協定）を締結しました。その連携内容は多岐に渡り、SDGs推進事業についても拡がりをみせています。

代表的なものとしては、2021年度より両大学共催でSDGs 推進強化週間「SDGs WEEKs」を開催しています。期間中は、両校それぞれのパートナーである企業・自治体と連携し、SDGsセミナーやワークショップ、交流会など多様なイベントを通じてSDGs推進の機運醸成を図りました。特に、両校の学生団体によるSDGsアクションの啓発ポスターの合同展示企画や、両校の合同団体「KLASH」による高大連携ワークショップの実施などを通じて、普段SDGsに関わりの少ない学生・生徒にもアピールできたことは、本イベントの大きな成果と言えるでしょう。また、関西大学の前田学長と法政大学の廣瀬総長が「SDGsと大学の役割」をテーマにオンライン対談を実施し、これまでの事業を振り返るとともに、SDGs達成に向けて両校が行っている教育・研究・社会連携などの取組紹介や今後の展望について意見交換を行い、両校の目指すべき将来像も明確となりました。さらに、最終日にはSDGsアクションプランコンテストを法政大学市ヶ谷キャンパスで開催し、10組の学生チームが大学で学んだ知識や柔軟な発想を活かしたプランを発表し、学習の成果を存分に発揮してくれました。

以上のように、両校は「SDGs」を旗印として学生、生徒、教職員、地域住民や企業・自治体・NPOなど様々なステークホルダーとの連携・共創により、SDGsの達成に向けて取り組んでいます。今後も、両校のパートナーシップの下2030年のゴール達成に向け、社会と連携した取組を加速させていきたいと思います。

関西大学副学長
高橋　智幸　教授

学生×SDGs

STUDENTS ENGAGEMENT for SDGs

ゴール4

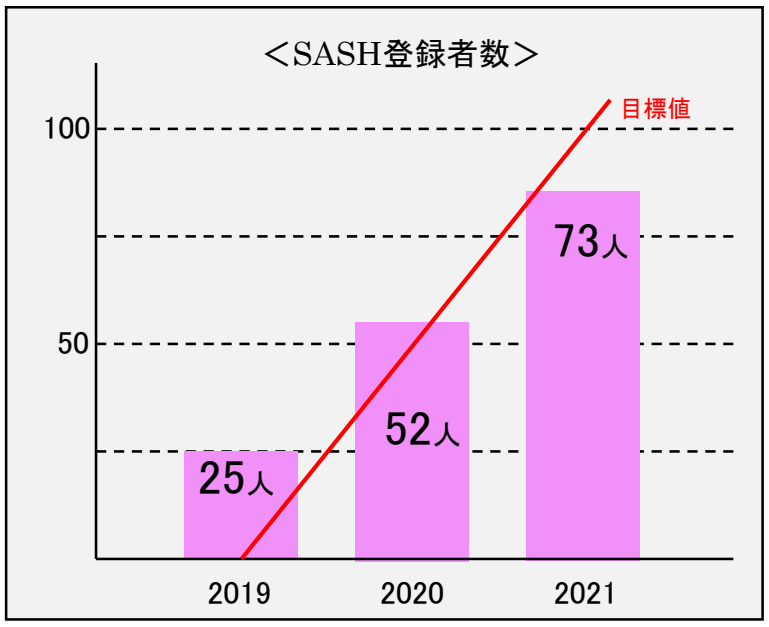
学生があらゆる場所で活躍できるフィールドを提供する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
4．1	すべての学生がSDGs達成に貢献する取り組みを実施する。	4．1．1	SDGs Action Students of HOSEI（SASH）登録者数	累積500人以上
		4．1．2	認定プロジェクト数	累積100以上
4．2	世界中の学生とSDGsをテーマにした交流を実施する。	4．2．1	海外学生との交流プログラムの参加人数	累積1,000人以上
4．3	学生がSDGs達成に貢献する活動やSDGsに関連する活動内容を発信する。	4．3．1	コンテストやポスター展示会などのプログラム実施回数	累積20以上

SASH（サッシュ／SDGs Action Students of HOSEI）

SASHは、2019年6月に新たに立ち上げられた学生組織であり、SDGs達成に貢献する様々な活動を積極的に行う学生たちにより構成されています。2021年度時点で73人の学生が登録しています。目標値には達していないものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、この2年間は対面での十分な募集活動が展開できなかったことを考慮すると、決して少なくない人数であると思われます。今後、対面での募集活動に力を入れ、登録者数の増加を図ります。

また、SASHでは多くのプロジェクトを実施しており、畜産業と環境をテーマにした高大連携企画「Meat Free Monday」や、キャンパス内の傘廃棄量削減を目的に傘のシェアリングサービス「アイカサ」について大学へ導入提案を行うなど、着実に活動を進めています。



コンテスト終了後の集合写真

KANDAI×HOSEI SDGsアクションプランコンテスト

2020年度より、関西大学とSDGsアクションプランコンテストを開催しています。このコンテストは、大学生が主体となって実践するSDGsに貢献する行動計画「アクションプラン」を募集し、顕彰する事業です。また、2022年度に開催するコンテストでは、2021年度開催のコンテストで賞を受賞した学生による1年間の実践結果の報告を予定しており、「アクションプラン」で終わらせず、実際の「アクション」に繋げられる仕組み作りを構築しています。今後はそのアクションに対して大学がサポートしていく「プロジェクト化」に向けて、検討を進めています。

SASHの活動　～SDGsを「考える」から「やってみる」に～

私たちSASHは「ワクワクする未来を創造する」をモットーに、SDGs達成のために様々な活動を行っております。中でも私はファッションチームに所属し、ファッション業界の持続可能性についての情報発信やイベントの企画・運営を行っています。

2021年度は不要になった衣服を集め、「古着ファッションショー」を開催しました。メンバー自らリメイクに挑戦したり、ファッション業界の抱える課題について楽しく学べるスライド等を作成しました。また法政大学SDGsパートナー企業である株式会社ナカノアパレル様にもリメイクのご協力をいただきました。学生にとって身近な物であるファッションを切り口にしてSDGsに触れることで、SDGsについて考え学ぶだけでなく、行動に移すハードルが大きく下がる気がします。SASHメンバーにとっても自分のワードローブを見直したり、着なくなった衣服のリメイクに挑戦したり、とファッションとの向き合い方を考え直す機会になりました。またイベント参加者からは「リメイクは難しそうというイメージがあったが挑戦してみようと思った」等の感想をいただき、ファッション業界の持続可能性について楽しみながら考える非常に有意義な時間になりました。

SASHではこれからもSDGsアクションを起こすきっかけになるようなイベントや情報発信を積極的に行っていきます。「SDGsというワードは知っているけど、何から行動に移せばいいのかわからない」「SDGs達成に向けて行動をしてみたいけど一人では不安」などという思いを抱えている学生の受け皿となり、楽しみながら活動できる場所でありたいと考えています。

法学部国際政治学科
宮国　菜実さん

パートナーシップ×SDGs

PARTNERSHIP for SDGs

17 パートナーシップで目標を達成しよう

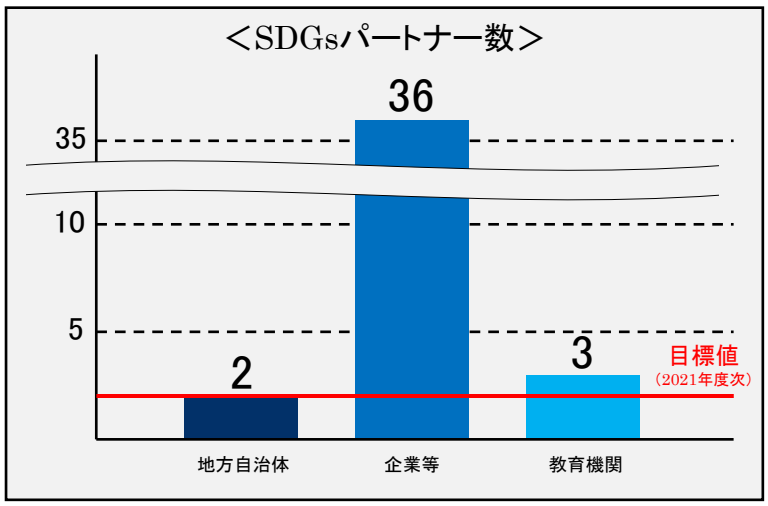
ゴール5
あらゆる課題に対して、パートナーシップで目標を達成する体制を構築する。

ターゲット		インディケーター		目標値（2030年次）
5．1	地方自治体や企業、大学など様々なパートナーとの協力体制を構築する。	5．1．1	地方自治体のパートナー数	10以上
		5．1．2	企業のパートナー数	10以上
		5．1．3	大学など教育機関のパートナー数	10以上
5．2	様々なパートナーとコミュニケーションを図り、新しい価値を創造する。	5．2．1	パートナーズコミュニティー等の開催数	累積10回以上

「法政大学SDGsパートナーズ」加盟団体等の増加

2021年7月にプロジェクトが目指す次世代のSDGs人材育成・輩出を実現するための新たなプラットフォーム「法政大学SDGsパートナーズ（以下パートナーズ）」を設立して以降、特に企業等の加盟パートナー数の増加が非常に多く、当初定めていた2030年までの目標値を3倍を上回る数となりました。この結果は、大学が社会から求められている、あるいは期待されていることが想定よりも大きいことの表れであると受け止め、今後のパートナーとの連携事業の拡大により一層力を入れ、SDGs人材の育成・輩出をさらに加速させていきます。

一方で、2021年度までの目標値は達成できているものの、地方自治体と教育機関のパートナー数は、企業等のパートナー数のような増加はありません。2022年度からは地方自治体や教育機関のニーズを見極め、それに応えるべく、様々なプログラム等を計画していきます。



法政大学SDGsパートナーズ交流会を開催

法政大学SDGsパートナーズ加盟団体等との交流会を開催しました。交流会では、本学教員を講師としたSDGs学習会や、SASHやゼミによる活動内容の発表、連携したパートナーからの連携事業紹介、学生とパートナーによるSDGs合同ワークショップなど、様々な交流プログラムを実施しました。また終了後は懇親会を行い、パートナー同士の新たな交流や、学生の活動内容の発表を受けて、その活動を支援していただけるパートナーの申し出があったことなど、交流会をきっかけに、本学との連携だけではなく、パートナーシップの輪が広がっていく様子が伺えました。本学ではこうしたパートナーシップの輪が広がる取組みを今後も継続させ、「SDGsパートナーズ」での持続可能な地球社会の構築への貢献を目指し続けていきます。

学生とパートナーの合同ワークショップ

集合写真

法政大学SDGsパートナーズ交流会参加パートナーの声

株式会社モリサワは、2022年5月に法政大学が制定する「法政大学SDGsパートナーズ」に加入いたしました。これをきっかけに法政大学の職員や学生の皆様に向けて、「文字のかたちがわかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい」ことをコンセプトに開発したユニバーサルデザイン（UD）フォントや、資料のレイアウト作成に関する勉強会を開催しました。また、UDフォントを活用した資料作成のワークショップを実施し、より伝わる情報発信の方法についてご案内させていただきました。

2022年度法政大学SDGsパートナーズ交流会では、SDGsへの取り組みや課題について学生の皆様と話し合う機会をいただきました。将来を担っていく学生の皆様の考えに触れることができ、大変貴重な体験となりました。まだ、世の中ではフォントとSDGsの結びつきが浸透していないかもしれませんが、「フォント」は人々の情報伝達、コミュニケーションを支える重要な社会インフラのひとつです。フォントを選び、多くの方にとって読みやすくなるよう配慮することで、SDGsの貢献にもつながります。今回の交流会のような機会を通じて、多くの皆様にフォントについて知っていただければ幸いです。

今後もフォントメーカーとしてのノウハウを活かし、貴校との関係を深めることで、持続可能な社会に貢献できる人材の育成にご協力できればと考えております。

■モリサワ サステナビリティ活動についてQRコードからご確認いただけます。

※こちらの文章にはモリサワのUDデジタル教科書体（UDフォント）を使用しております。

株式会社モリサワ
樫本　浩貴　氏

株式会社モリサワ
ｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ活動

SDGs+プロジェクトの取組みに対する第三者意見

株式会社セブン＆アイ・ホールディングス　執行役員　経営推進本部サステナビリティ推進部　シニアオフィサー　釣流　まゆみ　氏

法政大学様と弊社セブン＆アイホールディングスは、広い東京でも歩いて行ける距離にあるご近所ですが、ご縁はあまりございませんでした。2020年に当時の総長田中優子先生と対談させて頂く機会を頂き、法政大学憲章『自由を生き抜く実践知』に基づく、全学を挙げたSDGs教育の徹底に感動したことがご縁の始まりでした。弊社もSDGsの活動を深める中で、パートナーシップを重要な要素と考えています。法政大学の皆様とのパートナーシップは、これからの世代の学びへのアプローチに不可欠と考えています。

昨年参加させて頂いた、SDGs実践知ゼミナール、SDGsアクションプランコンテストでは、法政大学と関西大学とのコラボの場に居合わすことが出来ました。関西と関東の距離を超えた学生さん同士の刺激ある会話と行動は、ご本人たちにとって、何にも代え難い経験になったと思います。同席できた私たちにも、これからのSDGsを支えていく、若い力の重要性を痛感した貴重な場になりました。異文化、世代間、ジェンダー…様々なギャップがあればこそ、スパークし、新たな力を創造できると信じています。この場は、始まったばかりです。これから回を重ねる毎に骨太いものになり、SDGs先進国に日本が加わる為の大きな力になることをとても期待しています。

三井住友海上火災保険株式会社　営業推進部　部長　地域法人マーケットチーム　経営サポートセンター長　岡田　淳也　氏

ＳＤＧｓは「誰一人取り残さない社会」を構築するために、産官学民さまざまな立場の組織や個人が自分ゴトとして貢献し、達成を目指すことと考えています。

本レポートでは、貴学としてのＳＤＧｓの目標を高く具体的に掲げられています。そして、その達成に向けて学生や教職員、関係者の方々が、イキイキと行動されており、取組の進捗や、自治体、研究機関、企業等とのさまざまなパートナーシップを活かし拡大されていることも報告されています。貴学がＰＤＣＡでさらなる高みを目指し取組を進められている様子は、私ども産業界をはじめ多方面に大いなる刺激となっています。

今後、ますますのＳＤＧｓ取組の発展や、関連情報の発信を期待しております。

陸前高田市　政策推進室政策広報係長　松木　翔　氏

法政大学と陸前高田市は、東日本大震災に際して様々なご支援をいただいたことを契機に、2019年に「SDGs推進連携協定」を締結し、つながりを深めてまいりました。2020年度からは、２か年に渡り「陸前高田市×法政大学SDGsワークショップ」を実施し、貴学の学生がチームを組み、市内の４事業者とともに、SDGsの課題解決に向けた取組を進めていただきました。学生の皆さんは、コロナ禍で行き来することが難しい状況でも、事業者の思い、本市の課題や目指す方向性をしっかりと汲み、実際の取組にもつながる素晴らしい提案を発表いただきました。

地方が抱える課題は山積しており、貴学との連携のように、自治体の枠を超えた取組がますます重要だと考えています。震災から11年が経ち、本市もハードの復興は一段落しましたが、持続可能なまちづくりに向けた取組はこれからが本番です。これからも貴学の皆さんが、法政大学SDGs＋プロジェクトを通じて、地方の現場において「実践知」を磨かれ、あらゆる場所で活躍できる人材として、地域づくりに一緒に取り組んでいただけることを期待しています。

SDGs+レポート総括

―法政大学SDGs+プロジェクトリーダーより―

我々の世界を変革するための最短経路は次代を担う人材を育成すること

法政大学は、2030年に創立150周年を迎えます。その節目を目指して、長期的視野から持続可能な大学運営を展開するために2014年度より2030年度を展望する長期ビジョン「HOSEI2030」を策定しました。大学憲章「自由を生き抜く実践知」を掲げ、「地球社会の課題解決」「持続可能な未来への貢献」にも務めてきました。これは、国連で採択された2030アジェンダとその中に所収されているSDGsと軌を一にするものです。

持続可能な世界を実現する上で、最も重要なのは次代を担う人材を育成することです。大学で展開している教育活動の成果が目に見える形で現れることは多くないかもしれませんが、次代を担う人材を毎年輩出し続けることで我々の世界に着実な変化をもたらすものと信じています。本学ではSDGs+プロジェクトを今後も継続し、課題解決につながる実践知の創出を行う人材育成に努めて参ります。

SDGsの達成に向けたアクションのフォローアップとレビューを重視

本学ではSDGsに取り組むことを2018年末に宣言してから着実に歩みを進めて参りました。構成員に行動変容を促すために、SDGs+プロジェクト2030アジェンダ（行動計画）」を策定すると共に、その進捗状況を毎年定量的に把握できるようにインディケーターによるフォローアップ＆レビューの体制を整備しています。このフォローアップとレビューは全構成員（学生、教員、職員、役員、総長）が毎年一堂に会して行っています。

SDGsに関するアンケート調査も毎年実施しています。学内におけるSDGsの認知度やSDGsの達成に向けた行動の実践状況を継続的にモニタリングし、さらなる改善に向けた基礎的データとして活用しています。

このVURレポートの発刊も今回で二度目となりました。本学はこれからもSDGs達成に向けたアクションを展開し、その効果を検証しながら前に進んでいきたいと思います。

デザイン工学部
川久保　俊　教授
法政大学SDGs+プロジェクトリーダー

SDGsを原動力とした社会システムデザインに関する研究・教育活動を推進中。オンラインSDGsプラットフォーム（Local SDGs Platform, Platform Clover）、SDGsに関するデータベース（SDG Indicator DB）、SDGsに関する理解を促進し、行動を誘発するSDGsスタディパネルなどを開発し、研究室のホームページ上で無償公開している。

Voluntary University Review
「SDGs+レポート2022（Vol.2）」

発行：法政大学SDGs+プロジェクト
2022年8月26日　発行